

PoC 環境 利用案内書

1. 目的

本環境は、AI アプリケーションおよび AI サービスの評価・検証を目的として提供する PoC（Proof of Concept）環境です。

利用用途や技術要件に応じて複数の利用形態を提供し、コンテナベースの利用から物理サーバー利用まで柔軟に対応します。

本環境は評価・検証用途を目的として提供されるため、商用サービスレベルの可用性や継続利用を保証するものではありません。

2. 利用形態

本環境では以下の 3 つのレベルを提供します。利用目的・技術スキル・要件に応じて適切なレベルをお選びください。

レベル	利用形態	主な機能	管理者権限
Level 1	標準利用（推奨）	コンテナ・GPU・Web UI	不要
Level 2	サーバー利用	SSH・Docker・Python	一部制限あり
Level 3	特殊要件対応	基盤レベル変更	個別調整

2.1 Level 1：標準利用（推奨）

本環境は Kubernetes ベースの AI 実行基盤上で提供されます。利用者は Web 管理画面を利用して AI アプリケーションおよび AI モデルの実行・検証を行うことができます。

Kubernetes 環境、GPU 管理、基盤運用については運営者が提供・管理します。利用者は AI アプリケーションおよび AI モデルの評価・検証に集中することができます。

【補足】 本環境は Kubernetes を利用した実行基盤です。Docker コンテナを前提として利用できますが、アプリケーション構成によっては Kubernetes 環境向けの調整が必要となる場合があります。必要に応じて運営者が導入支援を実施します。

利用可能機能

- コンテナイメージ登録
- コンテナ実行
- GPU 利用
- 利用者専用ストレージ利用
- マルチユーザー利用
- Web 管理画面利用

コンテナイメージ登録方法

コンテナイメージの登録には以下の 4 つの方式があります。

方式	利用者の作業	運営者の作業
方式 1 (推奨) Git リポジトリ連携	Git リポジトリ準備、コンテナイメージ管理、管理画面から登録	初期利用サポート、問い合わせ対応
方式 2 Docker イメージ提供	Docker イメージファイル提供	イメージ登録代行、起動確認
方式 3 URL 提供	ダウンロード URL 提供	イメージ取得、登録代行、起動確認
方式 4 個別調整	特殊な要件の提示・協議	個別協議にて対応

ストレージ

利用者ごとに専用ストレージ領域を提供します。

パス例：

/data/users/user001

/data/users/user002

Level 1 におけるローカルストレージ利用可否については、利用形態に応じて個別確認となります。

2.2 Level 2 : サーバー利用

Level 2 は物理サーバーへ SSH 接続し、利用者領域内で環境構築およびアプリケーション実行を行う利用形態です。利用者には専用ユーザーを提供します。

必要に応じて Docker 利用権限を付与し、利用者自身でコンテナ実行環境を利用することができます。OS 共通設定変更や管理者権限を必要とする作業については、影響範囲を確認の上、必要に応じて運営者が対応します。

利用可能機能

- SSH 接続
- GPU 利用
- Python 実行
- Docker 利用
- 任意アプリケーション実行
- 利用者専用ストレージ利用

Conda、Jupyter 等は利用者自身で導入可能です。

利用可能領域

Home 領域（軽量ファイル向け）：

- SSH 鍵
- 設定ファイル
- 軽量なソースコード
- ユーザー環境設定

利用者専用データ領域（大容量データ向け）：

- AI モデル
- データセット
- Notebook
- ソースコード
- Docker Volume
- 学習結果
- 出力データ

大容量データは原則として利用者専用データ領域へ保存してください。

Docker 利用

Docker 利用時は bind mount を推奨します。

実行例：

```
docker run -v /data/users/user001:/workspace sample-image
```

制限事項

共通基盤の安定運用を目的として、以下の変更は実施できません。

- GPU Driver 変更
- CUDA Driver 変更
- Container Runtime 変更
- OS 共通設定変更
- システム領域変更
- 他利用者へ影響を与える変更

2.3 Level 3 : 特殊要件対応

共通基盤構成への変更を伴う利用形態です。要件ヒアリング、技術確認、対応可否判断の上で個別調整します。

対象例

- 特定 CUDA バージョン必須
- Driver 変更
- 特殊 Runtime 利用
- OS レベル変更
- 特殊ライブラリ利用

3. ストレージ利用方針

利用者ごとの専用ストレージ領域を提供します。以下の用途を想定しています。

- AI モデル
- 学習データ
- データセット
- 学習結果
- Notebook
- 出力ファイル
- Docker Volume

4. データ管理

利用者が持ち込むデータおよび作成したデータの管理は利用者責任とします。

利用終了時には利用者自身で不要データの削除を実施してください。

運営者は利用終了後に利用者領域の確認およびクリーンアップを実施する場合があります。

⚠ 本 PoC 環境では利用者データのバックアップは実施しません。必要なデータは利用者自身でバックアップを取得してください。

5. 利用上の注意事項

本環境は PoC（評価・検証）用途として提供されます。以下については保証を行いません。

- 可用性
- 性能
- 継続利用
- 利用者データ保全

利用者は自己の責任において本環境を利用するものとします。

6. 事前確認事項

利用申請時に以下の内容をご連絡ください。

確認項目	内容・記載例
利用形態	Level1 / Level2 / Level3 のいずれか
GPU 利用有無	使用する / 使用しない
ストレージ利用要件	必要容量の目安、保存データの種別 等
コンテナ利用有無	コンテナを使用する / 使用しない
特殊要件の有無と詳細	特定 CUDA バージョン、カスタム Driver 等 ある場合は詳細記載